

長崎県感染症発生動向調査速報（週報）

2025年第40週 2025年9月29日（月）～2025年10月5日（日）2025年10月9日作成

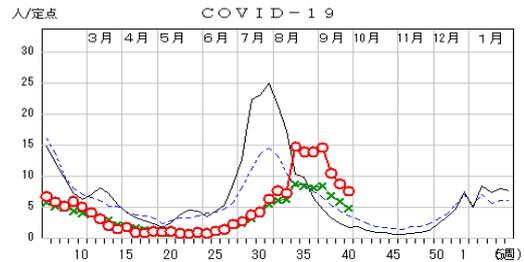
☆定点[※]報告疾患（定点当たり報告数の上位3疾患）の発生状況

（1）新型コロナウイルス感染症

第40週の報告数は386人で、前週より61人少なく、定点当たりの報告数は7.57であった。

年齢別では、10～19歳（100人）、10歳未満（64人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、県北保健所（12.33）、対馬保健所（10.67）であった。

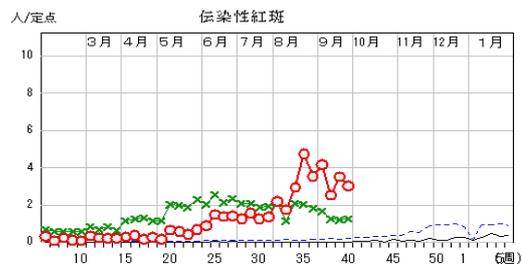


（2）伝染性紅斑

第40週の報告数は94人で、前週より15人少なく、定点当たりの報告数は3.03であった。

年齢別では、5歳（23人）、4歳（15人）、6歳（13人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、県央保健所（7.80）、佐世保市保健所（5.75）であった。

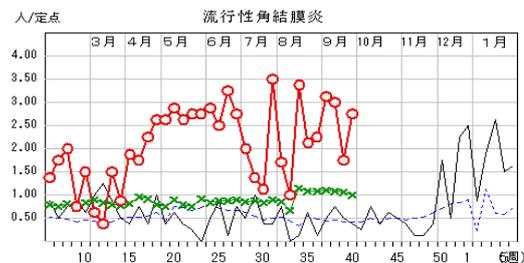


（3）流行性角結膜炎

第40週の報告数は22人で、前週より8人多く、定点当たりの報告数は2.75であった。

年齢別では、20～29歳（5人）、1歳（3人）、30～39歳（3人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、県南保健所（12.00）であった。



○ 当年(長崎県) ー 前年(長崎県)
 × 当年(全国) - - 前年(全国)

※急性呼吸器感染症定点数：51、小児科定点数：31、眼科定点数：8、基幹定点数：12
 （2025年第15週より定点数が変更されました）

☆上位3疾患の概要

【新型コロナウイルス感染症】

第40週の報告数は386人で、定点当たり報告数は7.57でした。地区別にみると、県北地区（12.33）、対馬地区（10.67）は他の地区より多くなっています。3週続けて減少しましたが、今後も動向に注意しましょう。

本疾患の主な症状は、発熱、咳、全身倦怠感等の感冒様症状で、主に飛沫感染や接触感染により感染します。場面に応じたマスクの着用や手洗い、換気、三密の回避などの基本的な感染対策に努めましょう。

【伝染性紅斑】

第40週の報告数は94人で定点当たり報告数は3.03となり、9週続けて警報レベルの報告数となりました。地区別では、10保健所中5保健所で警報レベルの報告数となっています。

本疾患は、ヒトパルボウイルスB19による感染症で、小児を中心にみられる流行性の発しん性の病気です。約10～20日の潜伏期間の後、微熱やかぜの症状などがみられ、その後、両頬に蝶の羽のような境界鮮明な赤い発しん（紅斑）、体や手・足に網目状やレース状の発しんが広がりますが、ほとんどは合併症を起こすことなく自然に回復します。一方で、これまで感染したことのない女性が妊娠中に感染した場合、胎児にも感染し、胎児の異常や流産のリスクとなる可能性がありますので、注意が必要です。感染経路は、飛沫感染や接触感染ですので、手洗いやマスクの適切な着用など感染予防に努めましょう。

【流行性角結膜炎】

第40週の報告数は22人で、定点当たりの報告数は2.75でした。地区別にみると、県南地区（12.00）は他の地区より多く、警報レベルの報告数となっています。

本疾患は、アデノウイルスによる疾患です。涙液や眼脂で汚染された指やタオル類からの接触感染により伝播し、小児からお年寄りの方まで幅広く罹患します。潜伏期は8日から14日で、急に発症し、眼瞼の浮腫、流涙、耳前リンパ節の腫脹を伴います。有効な治療薬はなく、対症療法が基本となります。感染力が強いため、眼分泌物はティッシュペーパーなどで除去し、直接手で触れないように気をつけましょう。また、手洗いを励行し、洗面器やタオルを共有せず、触れた場所をよく拭くなどして感染防止に努めましょう。

☆トピックス：マダニやツツガムシが媒介する感染症に注意しましょう

マダニ類やツツガムシ類は、野外の藪や草むらに生息しているダニで、野生動物が出没する環境に多く生息しているほか、民家の裏山、裏庭、畑やあぜ道などにも生息しています。マダニ類は「日本紅斑熱」や「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）」を媒介し、ツツガムシ類は「つつが虫病」を媒介します。

長崎県では、2025年第40週にSFTS1件、日本紅斑熱2件の報告がありました。

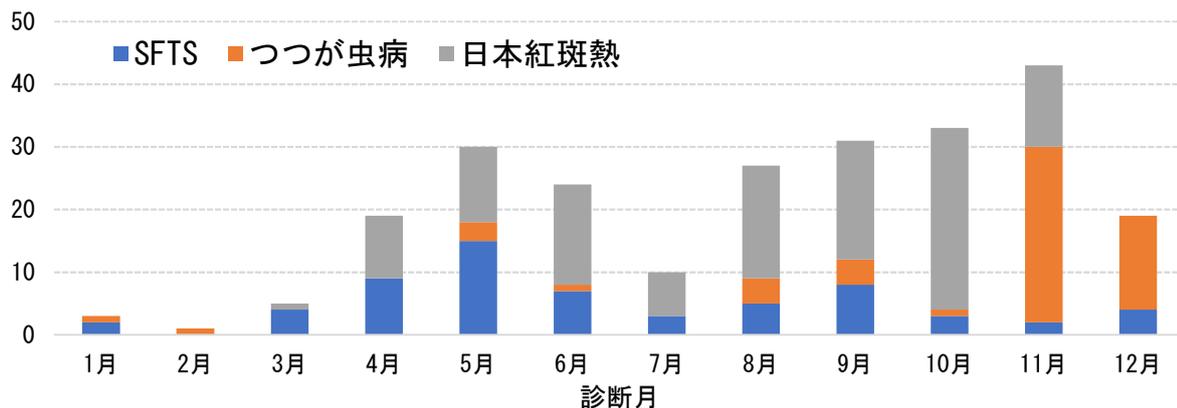
過去5年の県内の発生状況を見ると、10月に日本紅斑熱、11月につつが虫病の報告が最も多くなっています。ダニ等が媒介する感染症の予防には、ダニに咬まれないことが重要です。野外で活動する際は、長袖、長ズボン、長靴を着用するなどして肌の露出を極力避け、マダニに有効な虫よけ剤を使用して感染防止に心がけましょう。もし、マダニ等に咬まれていたことに気づいた場合、無理に取り除こうとせず、皮膚科等の医療機関で適切に処置してもらいましょう。また、咬まれた後に発熱等の症状があった場合は、速やかに医療機関を受診しましょう。受診した医療機関では、咬まれた状況などをできるだけ詳細に説明しましょう。

長崎県におけるダニ媒介感染症の発生件数

年	2020	2021	2022	2023	2024	2025
SFTS	8 (6)	6 (6)	6 (10)	13 (10)	13 (11)	11
日本紅斑熱	18 (10)	28 (18)	22 (12)	14 (13)	23 (16)	19
つつが虫病	11 (1)	14 (4)	7 (0)	15 (6)	11 (2)	0

※()は第40週までの発生件数

（件） 長崎県におけるダニ媒介感染症の月別患者報告数（2020年～）



☆トピックス：県内で日本脳炎の患者が発生しました

2025年第41週に、今年初となる日本脳炎の患者が平戸市で発生しました。本県では令和3年10月以来の患者発生となります。暑さのピークは過ぎましたが、ウイルスを媒介する蚊の活動時期は本県では秋ごろまで続きますので、蚊に刺されない対策をとることが重要です。

日本脳炎は日本脳炎ウイルスによって起こるウイルス感染症です。人はこのウイルスをもっている蚊（主にコガタアカイエカ）に刺されることによって感染します。

潜伏期間は6日から16日で、ほとんどの場合は無症状で終わりますが、発症すると数日間の高熱・頭痛・嘔吐・めまいがみられ、重症化すると意識障害・けいれん・昏睡などの症状とともに、死亡に至ることもあります。治癒した場合でも、麻痺等の重篤な後遺症が残ることもあります。

予防にはワクチン接種が最も有効です。定期予防接種は、市町の案内に沿って接種しましょう。任意接種することも可能ですので、かかりつけ医にご相談ください。また、蚊に刺されないように、網戸を閉め、蚊が家の中に入らないようにしましょう。蚊取線香や各種の虫よけ、殺虫剤等の使用も有効です。また、外出する際は長袖などを着用し、コガタアカイエカに刺されないような工夫が大切です。

(参考) 長崎県地域保健推進課 日本脳炎注意報の発表

<https://www.pref.nagasaki.jp/press-contents/735345/index.html>

(参考) 厚生労働省 日本脳炎

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/yobou-sesshu/vaccine/japanese-encephalitis/index.html

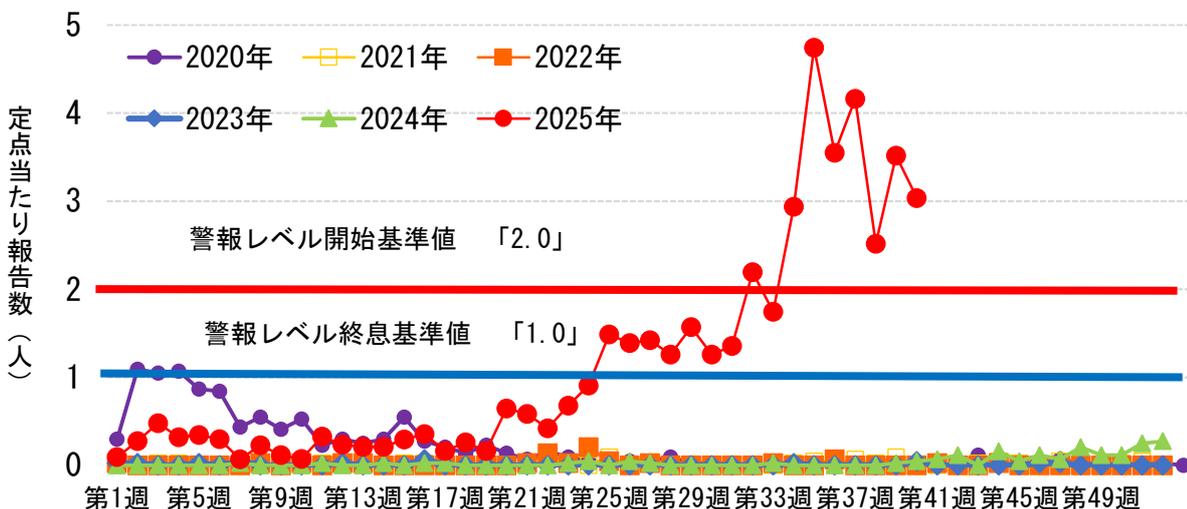
☆トピックス：伝染性紅斑が流行しています

伝染性紅斑は、ヒトパルボウイルスB19による感染症で、小児を中心にみられる流行性の発しん性の病気です。両頬がリンゴのように赤くなることから、「リンゴ病」と呼ばれることもあります。約10～20日の潜伏期間の後、微熱やかぜの症状などがみられ、その後、両頬に蝶の羽のような境界鮮明な赤い発しん（紅斑）が現れます。続いて、体や手・足に網目状やレース状の発しんが広がりますが、これらの発しんは1週間程度で消失し、ほとんどは合併症を起こすことなく自然に回復します。一方で、これまで伝染性紅斑に感染したことがない女性が妊娠中に感染した場合、胎児にも感染し、胎児水腫などの重篤な状態や、流産のリスクとなる可能性がありますので、注意が必要です。

2025年第40週の報告数は94人で定点当たり報告数は3.03でした。第32週に警報レベル開始基準値「2.0」を超え、9週続けて警報レベルの報告数となっています。地区別では、10保健所中5保健所において、警報レベルの報告数となっています。

感染経路は、飛沫感染や接触感染で、かぜ症状のある時期にウイルスの排出が最も多くなるといわれています。治療薬やワクチンがないため、感染予防が重要です。特に妊娠中の方やそのご家族ではかぜ症状がある方との接触をできる限り避け、手洗いやマスクの適切な着用など感染予防に努めましょう。

長崎県における伝染性紅斑報告数の推移



◆全数届出の感染症（第40週診断分）

2類感染症：結核 患者 男性（80代以上・1名） 女性（70代・1名）
 無症状病原体保有者 男性（70代・1名）
 3類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 無症状病原体保有者 女性（20代・1名）
 4類感染症：重症熱性血小板減少症候群 患者 男性（80代以上・1名）
 日本紅斑熱 患者 男性（70代・1名） 女性（40代・1名）
 レジオネラ症 患者 男性（60代・1名）
 5類感染症：梅毒 患者 男性（40代・1名）
 百日咳 患者 男性（10代・3名、20代・1名、60代・1名）
 女性（10歳未満・2名、10代・2名、30代・1名、50代・1名、60代・1名）

◆定点把握の対象となる5類感染症

（1） 疾病別・週別発生状況（第35～40週、8/25～10/5）

疾患名	定点当たり患者数					
	35週	36週	37週	38週	39週	40週
	8/25～	9/1～	9/8～	9/15～	9/22～	9/29～
インフルエンザ	0.43	0.61	1.04	1.06	1.51	0.49
新型コロナウイルス感染症	13.92	13.90	14.61	10.51	8.76	7.57
RSウイルス感染症	2.10	2.84	2.65	3.42	2.19	1.35
咽頭結膜熱	0.45	0.52	0.23	0.32	0.29	0.52
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	2.74	1.68	1.61	1.26	1.39	1.29
感染性胃腸炎	2.58	3.35	3.61	2.45	3.13	2.42
水痘	0.19	0.45	0.48	0.77	0.29	0.23
手足口病	0.29	0.23	0.23	0.13	0.16	0.13
伝染性紅斑（リンゴ病）	4.74	3.55	4.16	2.52	3.52	3.03
突発性発しん	0.45	0.39	0.16	0.45	0.39	0.29
ヘルパンギーナ	0.35	0.26	0.39	0.13	0.19	0.03
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.03			0.03	0.10	
急性出血性結膜炎	0.13	0.13	0.50			
流行性角結膜炎	2.13	2.25	3.13	3.00	1.75	2.75
細菌性髄膜炎	0.08			0.08		0.08
無菌性髄膜炎	0.08	0.17			0.17	
マイコプラズマ肺炎	1.17	0.42	0.83	0.58	1.17	0.58
クラミジア肺炎（わん病は除く）						
感染性胃腸炎（ロタウイルス）						
急性呼吸器感染症（ARI）	62.94	70.43	76.12	61.20	65.16	63.45

（2） 疾病別・保健所管内別発生状況（第40週、9/29～10/5）※赤字：警報レベル、青字：注意報レベル

疾患名	定点当たり患者数（県・保健所管轄別）										
	県	佐世保市	長崎市	壱岐	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	対馬
インフルエンザ	0.49	1.00	1.00		0.20	0.63		0.33			
新型コロナウイルス感染症	7.57	7.57	8.18	6.33	6.00	8.00	7.20	12.33	1.00	7.33	10.67
RSウイルス感染症	1.35	0.75	1.83		0.33	2.00	5.33		0.50		
咽頭結膜熱	0.52	0.50				1.20	1.00	2.50			
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	1.29	2.00	0.33		2.00	2.00	3.67			1.00	0.50
感染性胃腸炎	2.42	4.50	1.67	1.50	4.33	4.60		4.00			
水痘	0.23	0.50	0.17				0.33	1.50			
手足口病	0.13					0.80					
伝染性紅斑（リンゴ病）	3.03	5.75	2.33		3.33	7.80	0.67	1.50	1.50		
突発性発しん	0.29	0.50	0.33			0.60		1.00			
ヘルパンギーナ	0.03				0.33						
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）											
急性出血性結膜炎											
流行性角結膜炎	2.75	4.00	1.33		1.00	1.00	12.00				
細菌性髄膜炎	0.08	1.00									
無菌性髄膜炎											
マイコプラズマ肺炎	0.58	1.00	1.33				1.00				1.00
クラミジア肺炎（わん病は除く）											
感染性胃腸炎（ロタウイルス）											
急性呼吸器感染症（ARI）	63.45	77.86	112.45	33.67	70.00	65.13	28.40	43.00	2.33	28.00	40.00